

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホーム はなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である医療法人の運営者は地域福祉に関わる必要性を認識し、介護保険導入後に地域密着型サービス事業所として、ここ藤島地区に開設し、広く相互に認知症の方々の生活を支え合う関係を大切にしている。特に、平成23年3月11日の東日本大震災の災害をきっかけに、平成25年10月3日に福祉避難所の確保に関する協定・締結、また、地区防災会議においては連絡体制や避難場所の確認、非常食・物品が確保され、今まで以上に具体化・強固な関係を築くことができた。医療面では母体である医療機関との24時間サポート体制、日常の健康管理、緊急時の対応等が図られている。また、感染予防対策では関連施設での勉強会に参加したり、指導を受け、衛生面においては「出さない、持ち込まない」ということを職員は十分に自覚し、周知徹底を図り、現在に至っても発生しておらず、入居者様の安全と安心を追求する環境となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「心が癒され安らぎのある家庭的な家」に基づき、年度始めにその年の目標を定め、職員は前年度の個人目標の反省、今年度の目標を個々に作成している。また、地域住民の一員として、今まで以上に地域との関わりを大切に、慈愛の精神を持って、基本方針の実現に向け、職員は日々努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が安心して暮らし続けるために、開設時から町内会へ加入し、町内会長との連絡を密にしており、年始めの獅子舞から地区行事(夏祭り、神社祭り、地区運動会等)に参加したり、毎年行われる普請は勿論のこと、今年は地域貢献の一環として草取り活動へも参加させていただき、相互に交流を持っている。また、地区の祝い事にもご招待いただき、良好な関係となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事、総会や防災会議においても、入居者様の方々と接点を持つ中で、認知症を抱えた方々に対する理解を深めていただいたり、グループホームの役割や認知症、介護保険についての説明を行い、いつでも相談に応じられる事をお話している。また、ボランティア受け入れの際は、プライバシーに十分に配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には各構成員や市担当者も出席し、幅広い意見がもらえる雰囲気づくりに努めており、2ヶ月に1回、定期的開催している。日常的な報告以外の事も取り上げたり、内容もマンネリ化しないように努め、出された意見や提案はサービスの中に組み入れている。また、構成員であるご家族が減少ぎみとなったので、当事者であるご家族の参加を促し、多様な意見を得ながら、更なる会議の活性化に向けて行く。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の方が数名おり、市担当者の方々とは、入・退院の報告や介護保険更新時の介護計画の提出等を行っている。運営推進会議に毎回出席していただき、助言等をいただきながら、わからない事や相談事等、メールや電話で教えていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症であっても尊厳ある生活を送れるよう、年度始めに、全職員で身体拘束についての基準厳守は勿論、拘束によって生じる弊害等を理解している。特に、スピーチロック、ドラックロック、フィジカルロックに関しては、職員で共通認識を持ち、日々声がけて、防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において、毎年、勉強会を行い、身体的な部分だけでなく、日々の声がけ等でも失礼な物言いになっていないか、職員同士で気を付けて実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から講師を招いて勉強会をしたこともあるが、実際に今まで6名の方が日常生活自立支援事業を利用し、成年後見制度を利用した方が1名、現在申請中の方が1名おり、職員に周知している。新しい職員には都度、理解できるまで説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は書面にての説明と、改めて読んでいただき、納得の上、かつ慎重に、同意書の記載をお願いしたり、制度の改正がある場合等も再度説明し、同意を得ている。その後においても不安や疑問があった時は、随時、入居者様やご家族と話し合いの場を設け、退去後も同様に支援や相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者様が要望や不満等を表出できるように、コミュニケーションを重視している。ご家族の面会時は、時間を設けて本人の状況や生活の様子を伝え、その中から吸い上げ、ご家族との連携や職員が情報共有を図りながら、良いケアができるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館のミーティング、職員会議、1日2回の申し送り、入居者様のことはもちろん、様々な提案、意見交換を行い、職員からの要望が反映されやすい環境づくりを行っている。3ユニット間での異動はあるが、日常的に交流を持ち、顔馴染みであり、入居者様に混乱はみられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	諸事情による急な勤務変更や休み、小さい子供や家庭があっても働きやすい職場環境となっている。日頃より、お互いに成長できるように、学び合いの気持ちを持って勤務できる職場となるよう、運営者はゆるぎなく、外部研修や就業面、健康面に配慮していただき、職員は安心して就労できることに充足している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内も学びの場としており、研修で得た知識は報告書を作成して回覧し、各研修事項に則った研修を行いながら、職員は日々勉強と、十分に自覚して啓発に努めている。また、運営者は外部研修に多大な理解を示し、要する時間や費用等についても惜しまずに支援してくださっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流や勉強会でのつながりは、最も大切である事を運営者は深く理解している。また、関連施設での勉強会、毎月行なわれるお茶会にも出席し、その中から学び得た知識や情報は職員で共有しながら、事業所のサービスの振り返りや向上に役立っている。また、入居者様は交流を通して楽しまれたり、気分転換になっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居者様及びご家族より身体状況や生活歴、経過シート記載等の情報をいただき、活用しながら、職員が馴染みの関係となれるように話を傾聴している。また、信頼関係を築き、安心して暮らせる場所となるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい生活に向けて、入居者様やご家族の困っている事、思いを伺い、解決の糸口のお手伝いをさせていただき、少しでも緩和できるようにしている。事ある毎に日常の様子を報告し、相互に問題の共有と協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から主訴を伺い、十分に検討した上で、現時点で本人がベストな環境で生活できる事を優先しており、必要と思われる支援を見極めながら、適切なサービスにつなげられるよう、ケアマネージャー、各機関とも相談の上、利用できるように柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の状態により、介護する側の比重が高くなっている中においても、職員は、ただ養護や支援する側・される側という意識を持たず、個々の保有能力に応じて、時間がかかってもできる事に協働し、常に生活を共にできるように努めている。また、入居者様同士で気遣ったり、支え合う関係も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在価値を温存、導き、これで終わりではないこと、これからであることを共に誘発し、共存していただくために、情報交換や機会づくりを大切にしており、喜ばしい事柄や行動については、ホームだよりや面会時に話題にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで育んできた人間関係や生活を尊重し、こだわりの場所、交友関係、環境を可能な限り継続でき、希望が叶うよう、家族の協力や職員の代行により、連絡・調整を行っているが、迎える側が多くなった現状では、再来館していただくように声がけしたり、外出時は慣れ親しんだコースを選んだり、行事では共に参加することにより、絆を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は見守りの中、入居者様同士の関係性や性格を把握し、一人ひとりが共に助け合い、協力し合う雰囲気大切にしている。また、家族の一員と意識付け、関係が円滑に保たれるように見守り、配慮をしている他、孤立やトラブルへのサポートも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今日までの入居者様、ご家族との出会いや関わりを大切にし、新しい環境に馴染めるよう、また、生活へのアドバイスや暮らし方の継続ができるように、ご家族の了承の上、情報を伝え、入居者様が環境変化に混乱しないように取り組んでいる。また、いつでも気軽に相談・連絡可能なこともお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりのゆっくりとした関わりや細かな見守りの中、職員が個々の話を聞き、思いや意向を把握している。また、日々の積み重ねが大切と思い、記録して、情報の共有を図っているが、意向等が十分に把握できない場合は、会話や態度の変化の中から見出せるように支援している他、家族からの情報収集も行い、活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行い、場合によってはこれまで生活されていた住居を訪ね、情報収集に努め、安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。入居後も面会時等に得た情報を活かせるように、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムに合わせ、起床、臥床に努め、穏やかに過ごしていただいている。できる事を楽しんで行っていただけるように、できない事の支援は励ましの少ない支援でできるよう、記録や申し送り等で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一連のプロセスを経て、日々の気づきや入居者様の希望、ご家族の要望、思いを伺い、その事を踏まえた上で、本人にとって何が大切か、現在の課題を提言し、サービス担当者会議を行い、モニタリングやMMSE方式結果も含めて作成しており、職員でケアを認識して提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身状況や出来事をケース記録に記入し、具体的な支援内容と様子も記入して申し送り、話し合い、情報を共有している。月1回、モニタリングを行い、職員や看護師を交え、振り返り、評価をしながら、介護計画に反映させ、より良いケアの追求に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所でできる事だけにとらわれず、ご家族や他医療機関の協力の下、往診や受診を取り入れたりと、行きつけの理・美容院に付き添っている。また、いつでも一緒に居室で宿泊でき、面会時間に関しても制限なく受け入れたり、食事も好き嫌いや健康状態に適した献立にする等、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域の方が、地域行事への参加を積極的に取り入れてくださったり、古い習わしの行事にも参加して下さっている。運営推進会議の折りには民生委員、町内会役員と、多岐に渡る地域資源に関する情報や意見を伺っている。野菜の差し入れの際は、入居者様と関わる時間を設けて下さっている。また、音楽療法の訪問や散髪のための福祉美容師の訪問の活用により、入居者様の生活もより一層、豊かな暮らしを楽しむものとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である運営者は入居者様一人ひとりの心身状態を熟知しており、毎朝訪れて、個々に真剣に優しく向き合い、体調を気遣ったり、不安な事や心配事にも相談に応じられたり、和む雰囲気づくりもして下さり、入居者様やご家族も安心されている。また、協力病院や入居前より通院している医療機関への受診も継続し、通院歴や内服状況等をファイルすることによって、統一した支援が受けられるようになっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日々の健康管理等の相談・助言は勿論、入・退院の立ち会いや入居者様の状態変化への対応、緊急時は24時間連絡が取れる体制であり、職員と共有したケアとなっている。また、主治医とも連携し、入居者様の生活を支えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関での入院・治療がスムーズにできるように情報提供し、身体機能低下と認知症進行予防のために、治療が終了した時点で、できる限り早く退院できるようにしている。退院後の留意点について、主治医や医療機関に伺い、ご家族と一体となり、受け入れを行っている。入院の際には職員が頻りに病院に出向き、状況観察や報告をして、退院後の対応に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、入居時に、できる事、できない事を説明し、「医療連携加算」「看取りに関する指針」を整備して、同意をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時のマニュアルや連絡網も作成し、看護師が各館毎に勉強会を行うことで、落ち着いて行動することが大事である旨、指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定した総合訓練をマニュアルに沿って実施し、入居者様との生活の中、危機意識を持てるように取り組んでいる。また、地域の消防団、防火クラブ等の強力なメンバーを交えた防災会議を行ったことにより、対策が具体化、強固なものとなっている。災害、停電時の非常食、物品も、入居者様や市協定締結による要援護者、職員も含めた分を常備し、災害時の避難方法及び避難連絡網、入居者様一覧表のファイルも全館で共有しながら、いつでも持ち出せるように備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、入居者様個々に向き合い、支援している。対応時には意向を確認し、承諾を得ながら進めており、特に入浴や排泄介助にあたっては、必要以上に露出しないように工夫したり、排泄中は声の届く範囲・場所で待機し、気兼ね無く安心して終えるように、プライバシーや羞恥心に配慮している。また、個人情報や守秘義務の取り扱いに関してはマニュアルを整備し、外部研修、内部研修、会議等で職員は十分に理解し、周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら考え、答えが出せるように、わかりやすい言葉や短い言葉を用いて問いかけ、声がけて表出できるようにしている。お願い事は必ず尋ね、入居者様が主となるように心がけており、難聴により意思疎通が難しい方にはジェスチャーや文字を書いて伝え、その時の表情や反応を見ながら意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールにとらわれず、入居者様個々の活動、体調等、その日の状態に合わせ、生活スタイル、ペースの確保、コントロールをしながら、ゆっくりと本人らしく一日を過ごしていただけるよう、柔軟に対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は本人の好みや個性を重視しながら、適した衣類と一緒に選び、華やいだ気分になれるよう配慮したり、できるだけ着替えることを習慣付け、生活にメリハリを持っていただいている。福祉美容師訪問による散髪や馴染みの美容院への予約の手配、送迎の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や近隣の山で採れた山菜等を食卓で囲むことで、四季や郷土を感じていただいたり、見たり、手に触れることで、内面的にも充足いただけるように演出している他、コミュニケーション交えながら、個々に作業のサポートをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材使用チェック表を基に新鮮な食材を使用し、バランスや昔慣れ親しんだ献立を盛り込むように心がけている。残量や水分摂取量については確認表を確認し、個々の状態により徐々に調理方法の工夫を重ねたり、代替品や補助食品等で栄養面でも個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に習慣となるよう、個々の状態に合わせ、見守りや声かけ、介助で仕上げを行い、清潔後は口腔内に残渣物が残っていないか、炎症はないかを確認し肺炎の予防と口腔内の変化、早期発見に努め、歯科受診や往診をしていただいている。義歯や口腔用具一式も消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況や認知症状に合わせ、昼夜共にパットの有無、サイズの使い分けや回復パンツにしたりと、一人ひとりに合わせている。また、排泄パターンに応じて事前誘導を行うことで、トイレでの排泄が可能となったり、最小限の失禁となることで不快な思いをしないよう、清潔面でも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	日々の食事の中に繊維質の食物や乳製品を多く取り入れたり、水分摂取をしていただく工夫やタイミングを図り、個々の状態に合わせて確保しながら、便秘を予防している。また、日常的に身体を動かす機会づくりもしているが、それでも排便の困難が見られた場合は主治医や看護師と相談し、本人に適した下剤で排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	浴室、脱衣室、湯の温度を確認し、個々の状態に合わせた入浴方法やスタイル、希望にも合わせ、時間、追温、追湯の調整も行っている。入浴拒否がある方は無理に勧めず、時間を持ったり、清拭したり、声かけの工夫をし、楽しんで入浴していただくように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然なスキンシップや非薬物療法の一つとして、アロマオイルで足浴、フットマッサージをしたり、日常的にハンドマッサージをしたりと、程良い薫りで気分の安定を図っている。屋外での散歩、軽作業、日光浴を取り入れ、心地良い安眠へつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬は処方箋の確認を行い、職員間で内容を理解している。新薬が処方となった場合は、状態の変化を記録し、受診の際には主治医へ報告、相談している他、ご家族へもその旨を伝えている。飲ませ忘れや誤薬がないよう、個々の服薬カード確認しながら介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個性を大切に、状態に合わせてながら、日常生活を通して、一人ひとりが力を発揮し、活躍できるように掃除や洗濯たたみ、調理の下ごしらえの手伝い、制作への参加等の場面づくりをし、張り合いや楽しく過ごせる環境へのサポートも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢や認知症状により、遠出や外出もままならなくなり、中庭への散歩、弁当を持って河川敷で自然の景色に触れ、のんびりと時間を持ったり、年間行事である自館、3館合同、関連施設の行事、地区行事に関してもご家族と相談し、承諾の上、本人の状態に合わせて支援している。本人やご家族の希望による買い物、散髪等は気分転換も兼ねて時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の申し出により、限られたお金を管理している方が1名おり、買い物、外出時の出し入れは付き添っている。施設管理の方は、力量に応じて渡したり、介助しているが、金額によっては後にトラブルにならないように、ご家族と相談している。管理している預かり金については、毎月末処理、明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方からの便りや小包みは一緒に開封し、お互いに、かけがえのない大切な人であることを職員と共に分かち合ったり、必要性や希望に応じて、ご家族や友人の電話等の取り継ぎや、やりとりの支援をしながら、関係が途切れないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染防止を念頭に入れた環境整備を行い、エアコンや床暖房、カーテン、換気することで、光りや室温を調整し、快適に過ごせるようにしている。窓から見える田畑や鳥、手作りの雪像、季節に応じた展示物等を見て、四季を感じていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の食卓席、ソファはその時々のお気分にに応じて、仲間同士で話をしたり、一人の気ままな時間を持つたりと、自由に場所選べるように、職員も関わりながら居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室はできる限り、自宅に近い環境となるよう、自宅で使用していた家具、寝具を持参していただいたり、思い出や大切な品、愛着のある物に囲まれて生活できるようにしているが、認知症状に合わせ、ご家族と相談しながら、安定、安全な環境が優先することもある。毎朝の掃除を欠かさずに行い、清潔面でも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の廊下やトイレ、浴室等には手すりを設置している他、居室で手すりが必要な場合はご家族と相談し、福祉用具のレンタルや購入を検討して、少しでも本人の残存機能を活かしながら、安心、安全に生活できるように支援している。		